



【査読なし】

中国における若い男女の親密な関係性に絡む 愛情規範とコントロールに関する研究 ——男性の立場からのインタビュー調査を通して——¹⁾

銭 宝 怡

(立命館大学大学院 人間科学研究科)

A Study on Affectional Norms and Control Involved
in Intimate Relationships among Young Men and Women in China
– Through an interview study from the perspective of men –

QIAN Baoyi

(Graduate school of Human Science, Ritsumeikan University)

This study focused on "men who comply with the demands of their female partners (hereinafter referred to as "she") despite feeling dissatisfied with her demands," and focused on the affection norms and control involved in intimate relationships from the perspective of men. To clarify why men put up with her despite feeling dissatisfied with her affectionate norms. The purpose of the study is to examine what this sequence of events means. In the survey, semi-structured interviews were conducted with five survey participants. The data from the interviews were analyzed using the KJ method. From the analysis, "sex education," "early love," "social media," "female influence on intimate relationships," and "male influence on intimate relationships" were extracted as the top categories, suggesting that the educational environment, social media, and the values of men and women in intimate relationships affect affective norms and control. It was suggested that the educational environment, social media, and the values of men and women in intimate relationships affect affection norms and control.

本研究では「交際相手の女性（以下、彼女と記す）の要求に不満を感じたにも関わらず要求に従ってしまう男性」に焦点を当て、男性の立場から親密な関係性に絡む愛情規範とコントロールに着目した。男性はなぜ彼女の愛情規範に不満を感じるにも関わらず我慢してしまうのかを明らかにすること。そして、このような一連のことは何を意味するのかを検討することを目的とする。調査においては、調査協力者5名を対象に、半構造化インタビューを行った。インタビューのデータはKJ法を用いて分析した。そして分析から、「性教育」、「早恋」、「ソーシャルメディア」、「親密な関係性に与える女性側の影響」、「親密な関係性に与える男性側の影響」が最上位カテゴリーとして抽出し、教育環境、ソーシャルメディア、そして親密な関係性にある男性と女性の価値観が愛情規範とコントロールに影響を与えることが示唆された。

Key Words : Intimate relation, Affectionate norm, Prohibition against early love, lack of sex education, influence of social media

キーワード：親密な関係、愛情規範、早恋禁止、性教育の欠如、ソーシャルメディア

1) 本研究は、2021年筆者が立命館大学大学院博士前期課程に提出した修士論文の一部を加筆修正したものである。

I. 問題と目的

マズローの欲求階層理論では、人の欲求を低次元から高次元の順で、生理的欲求、安全欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、自己実現欲求と分けられる。マズローによれば、健康な人間は、欲求の階層を上昇しながら、個々の欲求を充足させる（松井，2001）。家族、友人、恋人と親密な関係性を築くことで所属と愛の欲求が満たされ、親密な関係性は我々に対して非常に重要な役割があると考えられる。謝（2013）によれば、恋愛という親密な関係は独特な意味を持っており、恋愛関係にある2人はお互いのことを受け入れ、パートナーからの気遣い、優しさ、理解をもらえることで満足が満たされると指摘している。

恋愛という行為を通じて、我々は彼氏、彼女という新しいキャラクターになる。新鮮、困惑、怒りなど様々な感情が混じるが、パートナーとの恋愛関係が安定、良好に保たれば、相互理解やパートナーを支えることによってポジティブな気分になれる。一方、パートナーとの関係が不安定で、良好な関係に保たれていなかったら、恋愛関係にある2人は抑うつ、不安といったネガティブな感情が生じ、普段の生活にも悪影響をもたらす、暴力に繋がることもあると考えられる。

楊（2017）によれば、中国の大学生は外国の大学生と比べて、恋愛の成熟度や適応性などが低く、友達やインターネットに記載された事例を真似するのが基本であり、このような付き合い方は未熟で、不十分であると指摘している。交際相手と何らかの問題があった場合、友達からアドバイスをもらったり、インターネットで調べたりするのが主な方法である。適切なアドバイスが受けられないことや相談できる機関がないことは結局自分のやり方で解決しようとし、様々な問題が起こる。特に、今の中国では「何でもやってくれる彼氏がいい彼氏」、「彼氏だから、彼女のわがままを容認すべきだ」などのように様々な要求を親密な関係性にある彼氏に押し付けることがある。相手と親密な関係性にある限り本人が苦痛や不満を感じながらも、彼女の要求に従い、我慢の限界で別れたいと思っているのに様々な理由や考え

方によって別れられない場合も少なくない。

これまでの親密な関係性に関する研究は、主に意図的に恋愛関係にいるパートナーを殴ったり、蹴ったりなどする身体的暴力、恋愛関係にいるパートナーを批判したり、失望させたりなどする精神的暴力、恋愛関係にいるパートナーを無理やり、または相手の限界以上に性行為を要する性暴力といったドメスティックバイオレンスに関する研究がほとんどである。しかし、男性が加害者になる場合が多い一方、不満や苦痛を感じながらも、自ら交際相手の要求を規範と見做し、我慢の限界で別れたいと思っているのに別れられないといった問題を取り上げる研究はほとんどない。

本研究では「交際相手の女性（以下、彼女と記す）の要求に不満を感じたにも関わらず要求に従ってしまう男性」に焦点を当て、男性の立場から親密な関係性に絡む愛情規範とコントロールに着目する。男性はなぜ彼女の愛情規範に不満を感じるにも関わらず我慢してしまうのか、そして、このような一連のことは何を意味するのかを検討する。

II. 方法

1. 研究参加者

本研究は交際経験のある20歳から30歳未満の中国人男性5名を対象とした。平均年齢は26.4歳（SD=1.95）であり、彼女（元の彼女）との付き合い時間は平均で3年間（SD=1.58）であった。選出方法としては、まず筆者の友人（彼女の要求に不満があるが従ってしまうことが筆者は既に知っている）1人が協力をいただいた。そして、この友人に「周りの人が彼女との関係に悩んでいる人はいないか」、「彼女の言いなりになる人はいないか」と聞き、このような人がいれば紹介してもらおうというスノーボール・サンプリングで2名を選出した。そして残りの2人のうち、1人は中国の動画サイト bilibili で「女権」をキーワードとして検索し、出てきた動画のコメント欄の中に自分の彼女に関するエピソードを書いていたユーザーに調査協力を求めるメールを送信し、協力を得た。また、もう1人は立命館大学の微信グループに調査協力のアンケートを配り、返信した人

から選ばれた。アンケートは Google フォームを使い作成した。「微信」とは、日本の「LINE」と類似するサービスを提供し、中国で最も使われているソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）である。なお調査対象者の職業と地域は条件としなかった。

2. 調査時期と調査場所

本研究の実施時期では 2020 年 6 月 30 日から 2020 年 8 月 31 日までに半構造化インタビュー調査を行った。新型コロナウイルスの影響で対面でのインタビュー調査を行うことが困難なため、今回はビデオ通話アプリケーションを通じてインタビューを実施した。ビデオ通話アプリケーションは「微信」のビデオ通話機能を使い、調査を行った。なお、今回はビデオ通話アプリケーションを通じてインタビューを実施するため、特に調査場所を限定せず、個室で静かに話せる場所であれば調査協力者の判断に任せ、使用する端末も調査協力者の好みで選んだ。なお、インタビューを実施する際、調査協力者の顔出しに関しては調査協力者の希望を聞き、柔軟に対応した。

3. 倫理的配慮と手続き

本研究では立命館大学総合心理学部・人間科学研究科における研究倫理審査の承認を得た（承認番号：2020-psy-019）。はじめに、インタビュー調査に関する説明及び同意書を基にインフォームド・コンセントを行い、調査に参加意思を示してくれた人から同意を求めた。なお今回の調査では新型コロナウイルスの影響で対面に実施するのではなく、ビデオ通話アプリケーションを使いインタビューを行うため、直接同意書に署名することが難しく、今回は同意書を直接調査協力者に送り、記入が必要なところを微信のチャット機能を使い記入させた。また本研究では「彼女からの愛情規範」に関する話をするため、調査協力者の過去の辛い経験を振り返ることになるので、話になることがつらい場合、話しにならないことが質問された場合は、無理に話さなくてもいいと伝え、申し出がある場合、いつでもインタビューを中断できると強調した。さらに、言語表現を正確に把握するために、調査協力者の許可を得

て、IC レコーダー（ICR-PS004M）を使って録音した。

個人情報の取り扱いとして、この研究で話した内容、逐語録を研究目的以外に用いることはなく、守秘を約束すること。そして、個人情報を保護するため、逐語録の名前は研究データから取り除き、符号に置き換えて管理すること。IC レコーダーの録音データは、逐語録を作成しましたら廃棄すること。データ開示や廃棄の希望に応えるため符号と名前の対応表を作成するが、逐語録と対応表はそれぞれにパスワードを設定した 2 つの記録媒体にて保管すること。また、同意書を含む紙媒体については鍵のかかる棚にて厳重に保管すること。匿名化し、個人が一切特定されない形にした研究データは、研究実施者の責任下にて研究のため 5 年間保管し、5 年経過後は同意書を含む全てのデータを廃棄することと伝えた。協力者がこれらを全て同意した後、インタビューガイドに沿ってインタビューを始めた。インタビューが終了した後、調査協力者が不快感や気分の悪さなどを確認して、調査を終了とした。インタビューの所要時間は最長 1 時間 14 分 12 秒、最短 28 分 44 秒、平均 45 分 32 秒であった。

Ⅲ. 結果

本研究はまずインタビューで録音した内容から個人を特定しうる情報をアルファベットに置き換え、正確に逐語に起こし、トランスクリプトを作成した。その後、川喜田（1970）を参考に KJ 法を用いて分析した。なお、分析の際は心理学の基礎的知識を有する、立命館大学大学院人間科学研究科対人援助学領域の一人の助力を得た。分析の手順については以下の手順で行った。

- ① それぞれのトランスクリプトを熟読し、協力者自身の気づきや感情やその変化に関する内容を原文のまま抜き出し、その意味するところを集約的に捉えて、一行見出しを作成した。
- ② 手順①で得た一行見出しをバラバラに広げ、意味内容が類似したもの同士をまとめていき、小グループを編成した。それらの中核をなす概念を短文で表し、表札とした。この時、表札は各グループの意味を的確に表現し、表札で書いた短文しか理解で

きない表現となるように心掛けた。

③ 小グループの表札において、手順②と同じように中グループを作成し、グループの数が10個以内になるまでグループ編成を繰り返した。

④ グループ編成が完了した後、表札の内容が意味上の相互関係を成すように模造紙上に空間配置した。

⑤ そのあと、空間配置を崩さないように考慮しつつ最上位グループを解体し、もう1次元低いグループを取り出し、こちらも空間配置を行った。この作

業をもう一度行い、3段展開とした。

⑥ 空間配置の終了後、グループの輪取りを行い、表札を書き込んだ

⑦ 空間配置された表札をじっくりと眺め、関連付けを行い、関連性を書き込んだ

⑧ 手順⑦まで作った図解をふまえ、ストーリーとして捉え、文章化した。

そして、KJ法の結果を基に、調査協力者のエピソードを取り上げながら検討を行った。

図解化の際は以下の記号を使用した。

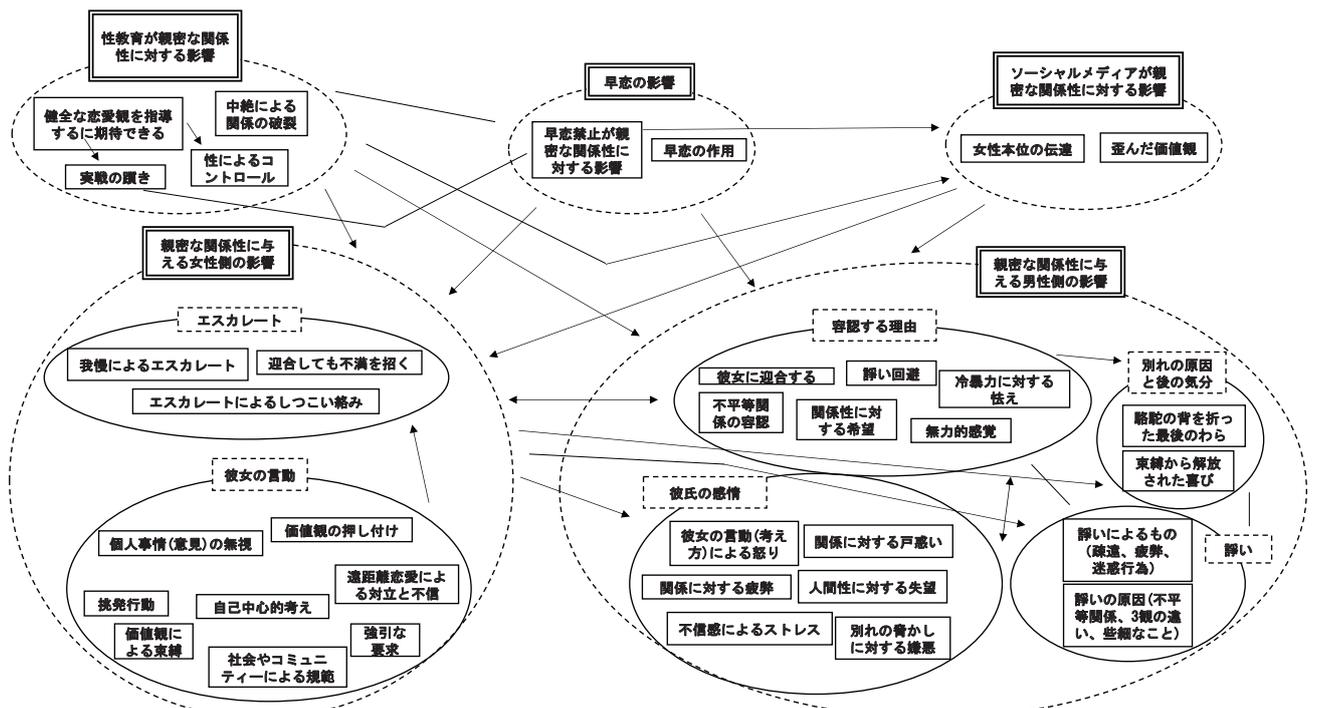
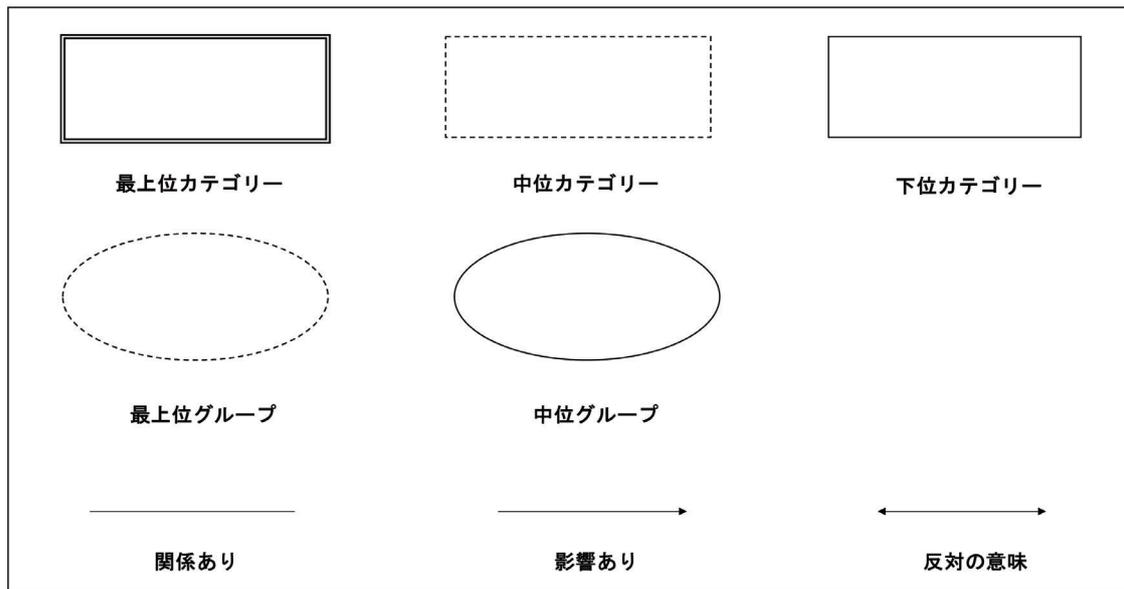


Figure1 愛情規範とコントロールに関するインタビュー内容の図解化

Figure1 に愛情規範とコントロールに関するインタビュー内容を図解化したものを示した。

愛情規範に関するインタビュー内容について、最上位の要素カテゴリーとして【性教育が親密な関係性に対する影響】【早恋の影響】【ソーシャルメディアが親密な関係性に対する影響】【親密な関係性に与える女性側の影響】【親密な関係性に与える男性側の影響】の5つを抽出した。次にこの関係図で明らかになったことについて下位カテゴリーと実験参加者の発言内容を用いてそれぞれのグループごとに文章化を行った。なお、本研究では、最上位カテゴリーを【】、中位カテゴリーを『』、下位カテゴリーを「」で表した。

1. 【性教育が親密な関係性に対する影響】について

【性教育が親密な関係性に対する影響】を構成する下位カテゴリーは「健全な恋愛観を指導するに期待できる」,「実践の躓き」,「中絶による関係の破裂」,「性によるコントロール」の4つである。

2. 【早恋の影響】について

【早恋の影響】を構成する下位カテゴリーは「早恋禁止が親密な関係性に対する影響」と「早恋の作用」の2つである。

3. 【ソーシャルメディアが親密な関係性に対する影響】について

【ソーシャルメディアが親密な関係性に対する影響】を構成する下位カテゴリーは「女性本位の伝達」,「歪んだ価値観」の2つである。

4. 【親密な関係性に与える女性側の影響】について

【親密な関係性に与える女性側の影響】を構成する中位カテゴリーは『エスカレート』と『彼女の言動』の2つである。また、『エスカレート』の下位カテゴリーは「我慢によるエスカレート」,「迎合しても不満を招く」,「エスカレートによるしつこく絡み」という3つが挙げられる。『彼女の言動』は「個人事情（意見）の無視」,「価値観の押し付け」,「挑発行動」,「自己中心的考え」,「遠距離恋愛による対立と不信」,「価値観による束縛」,「社会やコミュニ

ティーによる規範」,「強引な要求」という8つの下位カテゴリーで構成された。

5. 【親密な関係性に与える男性側の影響】について

【親密な関係性に与える男性側の影響】を構成する中位カテゴリーは『容認する理由』,『彼の感情』,『諍い』,『別れの原因と後の気分』の4つである。また、『容認する理由』は「彼女に迎合する」,「諍い回避」,「冷暴力に対する怯え」,「不平等関係の容認」,「関係性に対する希望」,「無力的感覚」の6つで構成された。『彼の感情』は「彼女の言動（考え方）による怒り」,「関係に対する戸惑い」,「関係に対する疲弊」,「人間性に対する失望」,「不信感によるストレス」,「別れの脅かしに対する嫌悪」という6つで構成された。そして、『諍い』を構成する下位カテゴリーは「諍いによるもの（疎遠、疲弊、迷惑行為）」と「諍いの原因（不平等関係、3観の違い、些細なこと）」の2つである。最後に『別れの原因と後の気分』を構成する下位カテゴリーは「ラクダの背を折った最後のわら」と「束縛から解放された喜び」の2つである。

IV. 考察

1. 【性教育が親密な関係性に対する影響】に関する考察

「性」という言葉は古代中国だけではなく現代中国においても醜いものとして扱われ、性教育を避けている。適切な性教育が行われず、学生はインターネットや友達から情報を把握する。しかし、インターネットから得た知識では正しいものもあれば誤解を招くものもあり、様々な問題を引き起こした。葛琳ら（2015）によれば、中国の若者たちはコンドームの使用率はまだ低い。15歳から17歳までの学生は初めて性行為を発生する時コンドーム未使用率は60.2%まで達し、また最近の性行為についてコンドーム未使用率は50%を超えている。その影響で、中国の若者が性病を患う人数が増え、2016年20歳から29歳までの若者に対する調査ではHIV（エイズ）、淋病、梅毒の発生率はそれぞれ39.4万人、73.5万人、21.1万人であった（网易数读, 2019）。また、「今

日手術, 明日は学校」, 「全然痛くない, 3分間だけ」などのように中絶手術の広告は街中に見られる。女性は適切な性教育を受けず, 中絶手術も体に害がなく, 避妊手段の1つのように宣伝される結果, 中国婦女発展基金会流産後关爱 (PAC) 項目 (2011) では, 中国では毎年およそ 800—1000 万人が中絶手術を受けたことがあり, 北京, 上海などの大都市では繰り返し中絶手術を受けた確率は 50% 以上も達し, 88.2% の不妊患者は中絶手術を受けた経験があると述べている。中絶手術は女性の体にダメージを与えるだけではなく, 不用意に妊娠することは親密な関係性にある 2 人の関係性にも影響を与え, 関係の破裂に繋がる。また, エピソードにも示されたように, 性教育はただ避妊や感染症予防の知識だけではなく, 親密な関係性にある 2 人の関係は平等にあるということも性教育の一環に入るべきだという意見が調査協力者 5 人のうち 3 人が話された。故に性教育のなさが不平等な親密な関係性の形成の原因の 1 つとなり, ソーシャルメディアに書かれたことを参考し, 親密な関係性に影響を与えることが考えられる。

2. 【早恋の影響】に関する考察

「早恋」という言葉は恐らく中国人全員が馴染みのある言葉である。「早恋」は中国語で, 日本語に訳すと早く恋愛する, 一般の年齢より早く恋愛するという意味で, 小, 中, 高等学校の学生たちが対象となり, 中国しかない言葉である。劉&李 (2015) は, 早恋は中国において特に注目されている教育問題であり, 教育に関する研究も早恋が学生の成長と成績に悪影響を与えると考えており, 実際に早恋に関しては抑制するのが一般的であると述べている。つまり, 早恋を禁止するのは主に 2 つの原因がある。1 つ目は小, 中, 高等学校の学生がまだ心身の成長が激しい思春期にあり, 責任も知らず年齢に恋愛をすると自分の成長に害があるという認識がある。そして, 2 つ目は中国が教育に対して非常に熱心で, 成績を妨げるものは全て排除すべきだという認識を持つ親も少なくない。故に高校までの恋愛は認めない立場が主流である。これらの気持ちを含めて「早恋」という言葉を作り, 「早恋」に対する態度も消極的である。

学校側も全て教育のためと学生の両親の態度を受け, 様々な規定を出し, できるだけ「早恋」を消せるようにする。例えば, 騰訊網 (2019) によれば, 河南省のある学校では, 学生の成績を上げるために, 50 条の規定を作った。そのうち, 男女共に行動するのが禁止, 男女一緒にテーブルで食事するのが禁止などの規定もあった。これは早恋を防ぐためだと学校の先生が言った。また, 人民網 (2015) によれば, 東莞市のある学校では男女学生は一緒に歩くだけで, 理由問わず早恋と見なし, 学校側はそれを批判あるいは退学する措置をとる。このような学校ルールがニュースによって報道され, 話題になることも少なくなかった。劉&李 (2015) によれば, 中国では早恋が犯罪を引き起こす, 友情を損害する, 集団を分離する, 人の精力を分散するなどの危険性があるとされ, 早恋に対して抑制傾向がある。例えば具体的な措置として, 批判, 隔離, 男女のクラスを別々にする。また認知療法, 支持療法, NLP 療法を実施し, さらに法律を作り, 早恋を抑制しようとする」と述べている。

親と学校は「早恋」をまるで化け物扱いされる一方, 学生たちはそれを普通に受け入れている。恋愛は成績に影響する, 今は勉強だけを考えて, 大学に行ったら自由にさせるからなどの理由があっても, 思春期の若者は異性に好意を持つのが自然で, 厳しいルールがあるとしても親と教師にバレないように隠して付き合う人もいる。

また, 参加者のインタビューから直男という言葉が出た。直男という言葉は 2014 年から大衆に知れ渡り, 使用率が急増している。直男は元々性的指向が女性の男性と定義されたが, 時間に連れ様々な意味が含まれており, 男女関係では主に彼女の気持ちがわからない男性と定義づけされた。早恋禁止によって多くの若者は大学まで恋愛経験がなく, 多くの若者たちはパートナーとの正しい付き合い方がわからなかった。高校まで禁じられていた恋愛も大学に入って一気に解禁され, 早く恋人ができたらと思ったが, 方法がわからず, インターネットで方法を探したり, 友達の経験を聞いて真似したりする人もいると考えられる。また恋人ができて経験がないからどのような付き合い方がいいのかわからな

い、ただ何があっても相手のことを第一位にしないといけない、それがいい彼氏（彼女）という発想につながり、ソーシャルメディアからの影響との関連も考えられる。しかし、網易数独（2017）によれば、66%の女性が直男という言葉を使ったことがあり、うちに19歳から24歳までの若い女性は使用頻度が一番高い。そして、直男の意味は女性の気持ちに合わないあらゆる場面に一般化され、次第に一種の偏見に変わっていくと述べている。

3. 【ソーシャルメディアが親密な関係性に対する影響】に関する考察

インターネットの出現は我々の生活にたくさんの変化をもたらした。自分のアイデアや考えがアプリケーションを通じて、大衆に発信することが可能かつ便利になった。泉水（2014）では、ソーシャルメディアでは受信者であった大勢の生活者がRT（リツイート）や「いいね！」ボタンなどで同時に情報発信者になるという。「受信者＝発信者」という構造ができあがり、情報が発信の連鎖に乗って波紋のように広がり、一瞬にして数百人から数万人、数十万人に伝わるようになったと述べている。特に中国では抖音（読み方：ドウイン、日本語版ではTikTok、以下TikTokと呼ぶ）と微信（読み方：ウェイシン、日本語版ではWeChat、以下WeChatと呼ぶ）が代表的なアプリケーションである。

TikTokやWeChatのようなソーシャルメディアは人々に対する影響について、森沢（2014）は、ソーシャルメディアを利用するユーザはコミュニティの中から友人やインフルエンサーと共通する属性情報を選び出し、ソーシャルメディアを通じたコミュニケーション文化によって感情を共有していると述べている。そこで、「恋人規範」、「女性本位の伝達」、「歪んだ価値観」の3つの感情も共有している可能性があり、人々の価値観に対する影響を与えると考えられる。

4. 【親密な関係性に与える女性側の影響】に関する考察

調査協力者5人の彼女はいずれも日常生活において「個人事情（意見）の無視」、「強引な要求」、「挑

発行動」、「自己中心的考え」などのような愛情規範が現れた。上記のエピソードから女性側は親密な関係性の中において自分の考えを優先にさせるために、彼氏に対して攻撃性を示すほか、彼氏に対して不満を抱えた時も攻撃することを最優先にしたとわかった。大淵（2011）では欲求不満など不快な経験をすることによって攻撃動機が個体内に生じる。そして攻撃反応の最終的目標は、不快経験によって生じた不快な感情（怒りや不満など）を外部に発散することであると述べている。このことから、愛情規範から現れた攻撃性は彼氏に対する不満を発散する手段の1つであり、自分が不満に晒される事態を減らすために愛情規範を彼氏に押し付けると考えられる。一方、EさんとGさんの場合では彼女は自分が女性であることを理由にして、「男性だからなんでもやるべきだ」、「女性なら問題がないが男性なら問題になる」というような認識があったことから、性別も規範の原因の1つとなり、男性側に対する要求が高められ、女性側のエスカレート行為に繋がると考えられる。そして、『彼女の言動』と『エスカレート』は【親密な関係性に与える男性側の影響】に影響を与え、男性側のコントロールに関連していると考えられる。

5. 【親密な関係性に与える男性側の影響】に関する考察

調査協力者5人の共通点として最初に自分の気持ちや考えを彼女に伝えるよう努力したが、女性側に無視され、だんだんと気持ちを伝えるのを諦めた。そして彼女との諍いを回避するため、言っても無駄ということが原因で女性側の言動に対して不満を感じた場合にも我慢するのを選択したとわかった。森田（2008）によると、LazarusとFolkmanでは人間と環境との間の関係を媒介する過程をコーピングと呼び、その中で、諦めや思考回避等を行うことでストレスを低減しようとするのが回避型コーピングである。彼氏が諦めと回避を行うことで、不満からもたらしたストレスを低減しようとするのが考えられる。

また、上記のような行動が学習性無力感と似ている。鎌原ら（1983）によれば、自己の行動と随伴し

ていない統制不能な嫌悪刺激を受けることによって、後の連合学習が障害されるという事実を見出し、これを学習性無力感と呼ぶ。つまり、嫌悪刺激に対して回避行動が生じ、そして回避しても嫌悪刺激がなくなる場合、次第にこの嫌悪刺激を受け入れ、我慢する行動に変わるといえる。しかし、学習的無力感を獲得したとは言え、女性側の言動に対する不満がなくなるのではなく、不満という感情が抑圧され、親密な関係性に対して、失望や疲弊、怒りなどのようなネガティブの感情が積み重ねる。

一方、調査協力者5人のうち4人が彼女の愛情規範に対して不満と語ったが、参加者の1人が彼女の愛情規範に対して理解できると話され、愛情規範を感情の伝え方として捉えている。この考え方の原因として参加者は「社会が彼氏だから彼女を優しく扱うべきだ、彼女のわがままを容認すべきだ」という認識があるから」と語り、社会が親密な関係性に与える影響も無視できないと考えられる。

6. 結果からみた愛情規範とコントロール

本研究では、男性はなぜ彼女の愛情規範に不満を感じたにも関わらず我慢してしまうのか、そして、このような一連のことは何を意味するのかを明らかにするのが目的である。結果から「性教育の欠如」、「早恋禁止」、「ソーシャルメディアの悪影響」という3つのキーワードが出ており、愛情規範とコントロール形成の原因となることが示唆された。「性教育の欠如」の結果、我々は平等な親密な関係という考え方を頭の中に取り入れることができず、また「早恋禁止」により、我々の恋愛経験が乏しく、親密な関係性に絡む葛藤に対して困惑という状態に陥る。そして、「ソーシャルメディアの悪影響」により、愛情規範とコントロールが現れるという流れが生じたことと示唆されている。以上のことから、中国において親密な関係性にある2人の恋愛観念は未熟であり、恋愛時期の関係性が保たれるため、将来の結婚生活に影響を与え続け、関係の破裂に繋がる。中国民政部民政統計データ（2020）によれば、2019年中国の結婚する人数は926万組に対して、離婚する人数はおおよそ404万組を占めており、2018年の離婚人数の380万組より24万組増えたと述べている。毎年、20

万組程度の数で増え続ける離婚人数は中国において社会問題の一つとして扱われ、最近では少子高齢化、離婚率の対策として「離婚冷却期間」を設ける新制度を打ち出し、波紋を呼んでいる。

以上のことから、中国において親密な関係性に絡む愛情規範とコントロールの現象を緩和するために、性教育の普及、また早恋に対して一方的な抑制する態度を変わらなければいけないと考えられる。性教育の普及はもちろん、早恋に関して、劉&李（2015）によれば、中学生時期の恋愛は個人の心理と学習に対して、ポジティブな効果があり、親と教師から早恋に当たる恋は人生を豊かにし、精神的健康を維持し、良い人間関係を築くなどに対して重要な役割を果たしている。同時に、学習によるストレスの軽減、学習効率を向上させる効果もあると述べている。「早恋禁止」という中国しかない考え方に対して、従来の批判的な立場から「早恋」がもたらすポジティブな影響も肯定する必要があると考えられる。

一方、調査協力者5人のうち1人だけまだ彼女と付き合っているが、残りの4人は我慢の限界で彼女と別れた。そして、今まで経験した愛情規範を総括し、それぞれ理想的で親密な関係性が語られ、「平等」、「尊重」、「理解」という3つが親密な関係性を維持するキーワードとなっている。

しかし、ソーシャルメディアの影響を受けた社会はこの3つのキーワードに衝撃を与えている。ステューヴン（2004）によると、私たちがどのように愛を育ててゆくかは、それぞれの文化がもつ価値観に基づいていると述べている。ソーシャルメディアの影響を受けた社会は、多くの人々に発信し、やがて一種の価値観となる。「彼氏とはこうであるべきだ」というような愛情規範は、ただ男性側の愛を確かめるために使うのではなく、「みんながそう思っているから、これが正常である」という思いも入っている。「みんながそうだから」という思い込みにとらわれてしまい、親密な関係性にあるパートナーをコントロールすることができる。所謂、【ソーシャルメディアが親密な関係性に対する影響】のところでも書いたように、親密な関係性にある女性側の愛情規範に対して、この愛情規範を多くの女性が認める

場合、男性側はこれらの愛情規範に迎合しなければいけない状況になると考えられる。

7. 愛情規範と PUA の関連性

上記の愛情規範に迎合せざるを得ないことから、愛情規範とコントロールは PUA と非常に似ている。江口 (2016) によれば、PUA (Pick-up Artists, 以下 PUA と呼ぶ) とは 20 年ほど前から米国の若い男性のあいだで注目されている「ナンパ」技術である。米国では「ピックアップ」(ナンパ) などに関する書籍は 1970 年代から存在していたが、2000 年前後からインターネットの掲示板を利用した「誘惑コミュニティ」が形成され、各種のナンパの技術情報の交換と蓄積がおこなわれている。2005 にオンラインでの情報まとめたトニー・クリンクの『確実に女をオトす法則』が出版され、こうした文化に一般社会の注目が集まったと述べている。PUA たちはそれぞれ模倣と研究によって自分なりの手順を作りあげ、この手順通りにやれば、女性をおとす確率が高いと言われている。元々短時間、高効率で交際相手を作る方法とされる PUA であるが、今は最早女性と短時間でセックスできる技法となっている。PUA は男性がまさに肉食系、というより性的捕食者 (sexual predator) であることを勧め、女性の「ノー」を言わせず「ノー」を解除する (江口, 2016)。相手の意志に反して、「ノー」を「イエス」に、または「ノー」を言っていないのであれば「イエス」と同じであるということは性的加害・被害と等しい。親密な関係性の中でも PUA はデート DV の一種であることが考えられ、更なる注目が必要だと考えられる。

一方、中国の場合では、「早恋禁止」、「性教育の欠如」により異性と付き合う経験がなく、大学に入ったら彼女がほしいが、どのように異性と付き合うのかはわからず、男性はインターネットを頼りにし、様々な情報を探ることになる場合も少なくないと考えられる。そこで「確実に女を落とせる」、「手順に従うだけだから簡単」の PUA 技術を学び、事件を引き起こすケースが出てくる。劉 (2015) によれば、中国の PUA コミュニティは初心者向けのサービスを開発し、普段の格好から NLP 心理学の理論知識、女性と話す時のオープンニング、女性と良い関係を

構築した後の手順まで詳しく説明する。さらに、PUA の先生は学生を連れ、実際の「ピックアップシーン」を見せる。この時学生は PUA の先生が如何に女性をアプローチし、如何に女性から連絡先を聞き出し、最後に女性とセックスするのかを見て、この一連の手順を身につけると述べている。また、謝 (2020) によれば、現在中国の PUA は心理学の知識を用いて感情のコントロールを目的にし、女性だけではなく男性側も被害者になる可能性があると述べている。

以上のように、中国では PUA が既に精神コントロールや暴力の代名詞となり、元々の男性側から女性側に対するという一方的方向性がなくなり、女性側も PUA の発信者になると示唆されている。例えば、「男性が彼女に PUA され、自殺」(澎湃新聞, 2020) がある。本研究の愛情規範とコントロールをもう一度振り返ると、「自分の価値観に服従させるために、パートナーを失望させるまたは傷つける発言をし、そして、価値観が押しつけられた本人が不満や苦痛などマイナスな気分さらされるが、交際相手の要求に従い、我慢する」ということは PUA の感情コントロールと非常に似ており、調査協力者の日常生活に浸透していると示唆されている。彼女とは対等の立場で話し合うのではなく、「迎合」、「我慢」というセルフコントロール行動が先立ち、コントロールされると考えられる。

8. 本研究の意義と限界

本研究は男性の立場からのインタビューから「彼女の規範に不満を感じたにも関わらず規範に従ってしまう男性」たちの共通点と相違点を見つけ出した。そして、親密な関係性にある相手の愛情規範によって苦しんでいる男性もいることをさらに可視化させ、世間がこれを問題視するきっかけになることが期待できる。また、愛情規範とコントロールは親密な関係性にある人なら誰でも経験したことがあり、親密な関係性に無視できない影響を与えている。中国では早恋禁止や性教育のなさによって、容易にソーシャルメディアが作り上げた愛情観念に囚われ、親密な関係性にあるパートナーに対して様々な強要を押し付ける。我々はこの愛情規範とコント

ロールを愛情の一環と見做し、軽視していると考えられる。

しかし、本研究では男性側の立場にフォーカスし、親密な関係性にある男性側の視点から見た彼女の愛情規範に対する気持ちと考え、そしてセルフコントロールの理由を取り上げたが、女性側の調査はされていない。今後は男性側から見ると愛情規範となる行為は女性側に対してどのような意味を持っているのか、女性側が愛情規範に関してどう思っているのか。また、親密な関係性は依存性が強い一方、葛藤というものには親密な関係性にある人なら避けられないことであり（高坂・小塩，2015），葛藤によって、より激しい諍いが起こり得ることから、親密な関係性にある人の日常的な諍いのメカニズムの解明や諍いのメカニズムからストレス低減方略と攻撃性を和らげる方略に関する研究することが必要不可欠であると考えられる。

引用文献

- 江口聡 (2016). 「ノーはノー」から「イエスがイエス」へ：なぜ性的同意の哲学的分析が必要か 京都女子大学現代社会研究, 19, 69-84.
- 葛琳・崔岩・李东民・李培龙・郭巍 (2015). 青年学生2010-2015年艾滋病相关性行为连续横断面研究 中国学校卫生, 36 (11), 1611-1613.
- 泉水清志 (2014). ソーシャルメディアの共感が購買行動に及ぼす影響—ソーシャルメディア利用度と口コミ経験からの検討— 育英短期大学研究紀要, 31, 1-14.
- 鎌原雅彦・亀谷秀樹・樋口一辰 (1983). 人間の学習性無力感に関する研究 教育心理学研究, 31 (1), 80-95.
- 川喜田二郎 (1970). 続・発想法 KJ法の展開と応用 中央公論社
- 高坂康雅・小塩真司 (2015). 恋愛様相尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 発達心理学研究, 26 (3), 225-236.
- 刘录护・李春丽 (2015). 校园“早恋”的中西比较研究 中国青年研究, 11, s109-113.
- 刘星驰 (2015). Pickup Artist 亚文化批判 湖南师范大学.
- 松井 剛 (2001). マズローの欲求階層理論とマーケティング・コンセプト 一橋論叢, 126 (5), 495-510.
- 森田美登里 (2008). 回避型コーピングの用いられ方がストレス低減に及ぼす影響 健康心理学研究, 21 (1), 21-30.
- 森沢幸博 (2014). ソーシャルメディアによる感情共有と創造的思考の関係 埼玉女子短期大学研究紀要, 29, 45-61.
- 大湖憲一 (2011). 新版人を傷つける心—攻撃性の社会心理学 サイエンス社
- 澎湃新闻 (2020). 男子疑遭PUA 烧炭自杀：每天给女友转账666元，不转会被告 https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_9305712 最終閲覧日：2020年11月5日
- 人民网 (2015). 东莞一中学早恋新规：男女一起走或被劝退 http://news.sohu.com/20150109/n407666115.shtml 最終閲覧日：2020年12月27日
- ステイーヴン・A・ミッチェル (2004). 池田久代 (訳) 愛の精神分析 春秋社
- Simonelli, C.J., & Ingram, K.M. (1998). Psychological distress among men experiencing physical and emotional abuse in heterosexual dating relationships. *Journal of Interpersonal Violence*, 13, 667-681.
- 騰訊網 (2019). 学校为了禁止早恋，定了这些规定，恋爱不敢想 https://new.qq.com/omn/20190319/20190319A0PU6L.html?pgv_ref=aio2015&ptlang=2052 最終閲覧日：2020年12月27日
- 网易数读 (2019). 中国年轻人性生活更少了，得性病的却更多了 http://data.163.com/19/1104/20/ET5PAJJE000181IU.html 最終閲覧日：2020年8月1日
- 网易数读 (2017). 分析了300万字文本后，我们终于知道了什么是直男癌 https://data.163.com/17/0830/19/CT43NV6M000181IU.html 最終閲覧日：2020年10月31日
- 謝佳佳 (2013). 理工科大学生成人依恋，应对方式与恋爱满意度的关系研究 电子科技大学
- 谢晴敏 (2020). 不良PUA所致“自杀鼓励”入罪分析 江西警察学院学报, 224 (4), 62-68.
- 楊琮 (2017). 基于F3模型的大学生约会暴力实验研究 天津师范大学
- 中国婦女發展基金会 (2011). 流産后关爱 (PAC) 項目简介 http://www.yiaijijin.org.cn/html/PAC.html 最終閲覧日：2020年8月1日
- 中国民政部民政统计数据 (2020). 2019年4季度民政统计数据 http://www.mca.gov.cn/article/sj/tjjb/qgsj/2019/th20200804201904.html 最終閲覧日：2020年12月27日